

令和4年度第3回亀岡市まちづくり協働推進委員会 会議要旨

日時：令和5年2月16日 14:00～15:30
場所：亀岡市上下水道部3階第1第2会議室

- 1 開会
- 2 開会あいさつ
- 3 協議

(1) 令和4年度実施事業について

事務局 資料に沿って令和4年度実施事業について説明
資料：令和4年度実施事業について

委員長 令和4年度実施事業3つについて説明をいただいた。順番に質疑応答、ご意見をいただきたいと思う。まずは1番目に説明のあった支援金について、10事業採択されて現在活動中ということだが、ご意見は。

委員1 成果の貼り出しをされる予定だが、その時に可能であれば団体に興味を持たれた方がその団体にアクセスできる方法や、活動予定が分かるような仕掛けをしておいていただけたらありがたい。例えば興味を持っている人はいつ行けば参加できるかといったインフォメーション的なものも次につなげる仕掛けとしてお願いしたい。

委員長 InstagramやTwitterアカウントを団体が持たれているのであれば、QRコードを貼っておいていただくと、手軽にアクセスできる。今、お話いただいたように、こうしたらどうかという小さなアドバイスでも結構なのでお願いしたい。支援金を活用している10団体で直接関係されている方もいらっしゃるが、この団体を知っている、頑張っているよという、そんなこともご報告いただきたらと思う。

委員2 自分の関わっている団体の話より、他で参加した団体についてだが、子育てサークルリラハピは引きこもりの支援の事業をされているが、私の関わっている団体の活動場所を活用した事業もされている。前に向かって一生懸命やっているという評価をしている。赤熊：この先四年楽しく暮らそう会では半国山登山を実施された。参加したが、地域以外の方や、幅広い年代の人たちが40人近く参加しており、ハードな登山だったが、美しい景色もあり、ポイントポイントで案内がきっちりされていて、このような活動を継続されていけば登山者が増えていくのではないかと思った。最後に自分の団体に関してだが、私が今まで代表をやってきて一線から身を引いた今はできるだけ干渉はしないということで、ほぼ口を閉ざしてやっている。学生たちは真剣にというよりは、半分遊びの延長みないになっているなという危惧は少ししている。もうちょっと頑張ってもらいたいと思っている。活動が終わった時点でしっかりした成果報告をしてくれというアドバイスをしているようなところだ。

委員長 リラハピも赤熊：この先四年楽しく暮らそう会も、どちらも長く活動をされている方と交流されるというのはとてもいい応援になるのではないかと思う。次に2点目、ふるさと亀岡まちづくり応援事業について、寄せられた支援の金額が出ているが、お気づきの点、ご質問、また団体によっては寄附額に相当差がでているので、どうやったらその差が埋まるのか、アイデアがあれば教えていただきたい。

委員3 質問だが、先ほどのふるさと亀岡まちづくり応援事業の事務局説明で申請されたら

交付すると言われていたが、団体が申請されなかったらそのお金はどうなるのか。

事務局 あくまで団体自体に対する寄附ではなく、事前に提出のあった計画に基づく、事業に対する寄附ということになっている。予定通りの額が集まったら当然申請のうえ、事業実施に活用いただけると思うのだが、目標金額に対して集まらなかった場合は、事業を実施される際の一部にし、寄附目標に対して足りなかった分は自己資金で実施をされるのか、または、令和5年度の事業実施ではなく、もう一年頑張っただけで寄附を集めてその分と合わせて令和6年度に実施をするということも可能にはなっている。事業を実施するというので、申請された場合にお渡しをするということ、申請しなかったら渡さないということではない。

委員3 仮に事業実施を諦められた場合集まったお金は他の団体に分配されるのか。

事務局 諦めて結局使われなかった場合は、市が市民活動の推進に使うお金となる。

委員3 別の質問だが、1団体で寄附件数37件あったことはすごいと思うが、どんな工夫をされたのか、ご存知か。

事務局 具体的などころまではまだお聞きしていないが、年始に一度お話をしたときに、けっこう力を入れて広報したということをおっしゃっていた。

委員3 広報とはSNSか。

事務局 SNSを利用された。例えばインスタに1回だけではなく何回も投稿をあげられたりだとか、ふるさと納税に対するハードルの高さを払拭するためにかわいいアニメーションを入れた動画で投稿されたり、発信ツールがFacebookやHPなどの他に、セミナーを開催された際にチラシを配られたり、使えるものは使って積極的に広報をされているような感じだった。制度が始まった際におっしゃっていたのだが、こちらの団体で支援している子どもの関係者、そこに子どもを通わせている親御さんや、祖父母に対してもアプローチできるのではないかと仰っていた。寄附者一人一人どういう方かは聞いていないがコアな関係者というよりもう一歩外側の関係者にアプローチされたのではないかなと思っている。他の団体にもフィードバックをしたいので、具体的な方法は確認しようと思っている。

委員3 広報戦略をうまくされているようなので是非他の団体に教えてあげてほしいと思う。

事務局 他の団体とお会いした際に、このような発信をされているとお見せをしたら、わかりやすいねと仰っていた。難しく考えすぎている方に対しても、そのように実例をお見せするのも広報方法の伝え方としては効果的かと思う。

委員長 それでは3つ目、市民活動推進フォーラムが2月26日に開催される。プログラム詳細をご提案いただいております、大きく内容は変えられないと思うが、細かな修正は可能かと思われる。また、参加者の募集に関して、ここに声かけたらどうかといったご意見もいただけたらと思う。

事務局 本日はご欠席の委員からも参加しますということで、ご連絡をいただいております、市内の自治会からもお一人参加いただけるということをお伺いしているので、自治会からもよかったですらご参加をお願いしたい。

委員長 私は先約があつていけないのが残念だが、自治会の方もこういうイベントに参加されたら、地縁団体とは違うところで活動されているところにヒントがあるかもしれない

い。

委員3 zoomで参加の場合はグループワークまでの参加ということか。

事務局 グループワークまでzoomで参加というのは難しいが、活動の発表を聞きたいというのであればzoomで視聴はいただけるということになる。

委員1 当日参加も可能か。

事務局 事前にご連絡をいただいていた方が、グループを作るときに有難い。

委員4 お断りをすることはないと思う。当日に何十人もこられることはないと思うので。

委員長 ご自身は行けなくても誰か知り合いに声をかけてというのものもあるかと思う。お聞きしたところでは、高校生の参加がいまのところ人数が少ないとのことだが。

事務局 今のところ3名参加いただく。お声掛けの際には、高校生も参加されるとアナウンスしていただくのもありかと思う。

委員長 それでは全体を振り返って今年度の事業の報告1～3について気づかれたこと、聞きたいことがあればお願いしたい。

私から1点、ふるさと亀岡まちづくり応援事業について、百万円近く寄附を集めている団体があるということはすごく可能性があると思った。しかし、団体によって差があり、集める手立てを知っているかどうかやちょっとした知識・知恵かと思うのだが、それを団体間で共有したり、場合によっては講習会を開いたりといったサポートを丁寧にしないと、後で議題にもあるが、従来からの支えあいまちづくり協働支援金の予算が大幅に減っているの、次の制度へ移行という点ではしっかりと活用できるような支援というものを是非今後とも進めていっていただきたいと思った。

(2-1) 令和5年度まちづくり協働推進実施事業について(案)

事務局 (1) 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業、(2) ふるさと亀岡まちづくり応援事業について説明

資料：令和5年度まちづくり協働推進実施事業について
令和5年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金 募集概要案、
要項、様式、記入例
ふるさと亀岡まちづくり応援事業

委員長 項目が多いのでまず最初の2つをご説明いただいた。ご意見、ご質問はいかがか。

委員5 4番目の項目に広報とあるので、そこで話がでてくるかもしれないが、この2つの支援事業の広報について、スケジュールを見ると広報かめおかに掲載するというのは書いてある。それ以外で自分自身が、皆さんLINEを結構見られていると実感したことがあり、同じ募集でも広報かめおかでは全然来なかったものが、市のLINEで投稿したとたんすぐに定員いっぱいになったということがあって、世代的なこともあるのかもしれないが、LINEの効果はすごいと思う。広報かめおかは、紙面がきれいにはなったが、月2回発行が1回になり、ページが多いのでどうしても情報が埋もれてしまうという感じで、全然目立たなかった。LINEにしたとた

ん予約が来たという実感があって、今回の事業もLINEでの広報というのは考えているのかお聞きしたい。

事務局 今年度も行ったが、11月～12月にかけての、皆さんがふるさと納税を特に意識される頃に再度LINEでの周知は行った。去年は7月の寄附募集を開始しましたという投稿と、11月の後半頃に寄附集めています、ふるさと納税どうですかという投稿をしている。来年度についても同じように投稿して周知したいと思っているが、LINEの方も使いたいといっていつも使えるわけではないので、効果的な時期を見極めながらお知らせをしたいと思う。

委員5 ふるさと亀岡まちづくり応援事業の登録団体募集でも皆さんの目につくかと思う。

事務局 そちらについても登録団体の募集開始についてLINEでもお知らせしたいと思っている。

委員長 広報は大事だ。広報に関連してだが、支援金の名称「亀岡市えあいまちづくり協働支援金」は変更できないのか？条例等で決まっているのか。

事務局 条例ではなく、要綱で決まっている。

委員長 今回、制度が大きく変わって立上げ支援になったが、この名称だと立上げを支援、応援するための支援金だということが読み取れないので、例えば「亀岡市まちづくりスタートアップ支援金」とか「まちづくり活動立上げ支援金」といったそんな名称だとLINEでぱっと流れても、タイトルを見ただけで、「あっ、はじめるのを応援してくれるのか」というのが分かるかと思う。難しいか。

事務局 検討させていただく。

委員長 名称が難しいのであれば、愛称みたいなものとか。そうしないと中身が変わっているのに看板が変わっていないということになってしまうので、なかなか届かないかと思った。

委員4 同じ名称だと、同じものだというように読み取れる。この制度が、これに変わったということが分からない。

委員長 同じことで、審査方法の基準だが、基準の内容を変えるというよりは、ここに5項目並んでいるが、チャレンジ性を一番上に持ってくるとか。そういうちょっとしたことでも、別に優先順位があるわけではないが、チャレンジ性というのが上にあれば「新しいチャレンジを応援してくれるのだな」という印象を受けたりできるので、できる範囲で今回支援金の目的が変わったというより、削られたということかもしれないが、立上げ支援をしていきたいのだという、市役所の意欲が伝わる工夫をしていただきたい。

委員1 あくまで感想というかイメージだが、スタートに重点を置くのであれば、出してもらった資料も多少重要度を変えた方がいいのではないかという気がしており、事業の計画書や収支予算は絶対必要だが、定款とか規約をドーンと最初に用意しろという結構ハードルが、新しく団体を立ち上げようと思ったらあがるかなど。これから作っていったら、というニュアンスにできないかなという感想を持った。

事務局 申請団体がどんな方なのかというのは見たいところではある。以前も委員会で定款と書かれると、無いけどどうしたらいいのかということで、諦めてしまってはもったいないというご意見があった。団体設立や運営に関する相談も承っているという文言で、作ることも支援はしたいとは思っているが、うまく伝わるかどうか難しい。

委員4 センターに相談に来られたケースで、5人くらいのグループでやっていて規約や定款がないという場合、このようなものでいいですよとひな型を提示すると、ちょっと作ってくるというようなアドバイスは結構ある。

委員長 無くてもいいのではないかと思うが。

事務局 団体の目的が書かれているので、用意はしていただきたい。また、他の補助金などを申請される際も規約等が必要になってくると思うので、作るところからお手伝いをしながら、ご用意いただきたいと思っている。

委員長 それをちゃんと伝えておかないと、要項の必要書類のところに、「定款」とあるのを見た瞬間に、自分の団体にはないのでダメだという団体も当然いらっしゃるかもしれない。その上に書いてある必要書類の団体概要書のところで団体について書いていくので、それで分かるのではないかなと思う。で、当然そこから次の支援を受けていく上では定款や規約というのは、必要かと思うので、3年間の支援をされていくなかで、3年終わった段階ではちゃんと作っておこうというスタンスで応援をされてはどうかと思った。一方で、公金で支援するのに、規約も定款もない団体に支援していいのかという細かいことをおっしゃる方がいらっしゃったら困るが、そこは市民を信頼していただきたいと思わなくもない。

委員3 例えば星印で「ご相談ください」と書いてあるとだいぶハードル下がるのでは。

委員1 下の7番8番の△印と同じような感じでもいいかもしれない。

事務局 表現については、なくても相談には行けるのだというような気持ちになってもらえるよう検討する。

委員長 お願いしたい。

委員3 これが表紙になるのか。スタート感がないと感じる。

事務局 もう少し見やすくなるようにデザイン、レイアウトの変更はしたいと思っているが、記載する内容について、ご意見をいただきたい。

委員3 最後10番の注意事項でふるさと亀岡まちづくり応援事業の団体登録の説明があるが、それが最後の最後でいいのかと思う。重要な記載じゃないかと思うので、最初に記載してもいいのではないかと。1ページ目最初の概要の最後くらいでもいいのではないかと思う。この支援金を取らないとふるさと納税の団体に登録できないというわけではないのか。

事務局 支援金の活用実績がないと団体登録ができないわけではない。最後の方の注意事項

に書いたのは、要項を見られて活用が3年までなので、その後はどうなるのかという不安を持たれた場合に、支援金はあくまでいつまでも市が支援をできるようなものではないので、自立を促すという意味でも、ふるさと納税も選択肢の一つですというくらいの重みで注意事項の中の一つとして記載した。立ち上げ期の団体にはこういった支援制度に慣れていただきたいということで、要項の最初に大きく書くどびっくりしてしまうというところもあるのかと思った。

委員3 ふるさと納税の登録ってそう簡単にできるものではない。

事務局 確かに、長期的な視点で事業を計画してもらわないと、なかなか寄附を募集してもらうときに、PRができないかと思う。

委員3 個人的には、亀岡市はふるさと納税を頑張っているんで、ふるさと納税のコンテンツの一つに入れてもらえるというのが団体にとって結構大きいことかなと思うので、それが最短距離でできるのがこの制度ですよというのをアピールしてもいいのではないかなと思った。多分普通だと、ふるさと納税に自分の団体を入れてくれといったところで弾かれてしまうと思うので、せっかくなので記載した方がハードルが下がるというか、みんなが応募してくれるかなという、一意見です。

事務局 支援金の要項でも別のふるさと亀岡まちづくり応援事業のPRもかねてというご意見かと思う。参考にしたい。

委員長 表紙の吹き出しを一個増やして、「次のステップはふるさと納税」そんなものを入れていただくというのも一つかと思う。
記入例は以前からあったのか。

事務局 記入例は毎年作ってはいたが、今回は会議の場で委員の皆さんにも事前に見てもらいたいということで会議資料に添付している。

委員長 これがあると良い。すごく参考になる。この赤字を黒にして提出しても事業が始められそう。
では協議2の残る議題について事務局より説明をお願いしたい。

(2-2) 令和5年度まちづくり協働推進実施事業について (案)

事務局 協議2 令和5年度まちづくり協働推進実施事業について (案) のうち

(3) 市民に向けた協働に関する事業

(4) 広報

(5) 中間支援機能強化・普及 について説明

資料： 令和5年度まちづくり協働推進実施事業について (案)

委員4 まちづくり博覧会の会場だが、これは市役所でやることは決まっているのか。

事務局 以前にギャラリーやスタジアムでやったらどうかというご意見をいただいていたが、会場費の予算がつかず、市役所ですることになるかと思う。

委員4 ギャラリーの方が市民活動とつながりが深いし、市役所は証明書などの手続きに来るところなので、予算の都合だけでギャラリーをあきらめるのはどうか。

事務局 ギャラリーで開催したいとは思っているが、市民ホールになるのではないかと思う。

委員長 市役所がギャラリーを借りられるのか。

事務局 借りられるが、一般の使用と同じ利用料金を支払う必要がある。

委員長 いくらぐらいかかるものなのか。

事務局 大広間だと1時間5,500円の利用料金とそこに備品代が追加になる。

委員4 展示を1週間しようと思うと結構な金額になる。

委員長 市民活動で借りると割引はあるのか

事務局 ない。なんとか人が集まりやすい会場でできるよう検討する。

委員1 広報の話だが、LINEの配信は確かによく見るのだが、ちょっと日が経つとリンク先が消えているので、ホームページでフォローをしてもらいたい。LINEは消えていてもいいが、そうなったら亀岡市のホームページでその内容がもう一回見えるといったことをお願いできたらと思う。特に支援金の時とかもそうだが、パッと見て興味があって後で見ようと思ったならもう見られないというのはすごくもったいないと思う。

事務局 ホームページも掲示期間というのがあってイベントが終わる期間にあわせて掲示終了としてしまっているものが多いが、おっしゃるようにその後も見られるように残しておくことも可能なので、なるべくいつ来ても見てもらえるようにするのと、見やすさという点を考えていきたいと思う。

委員長 役所はどこも終わったらすぐページが消されることが多い。記録としても置いておいてくれないかと思う。

委員1 リンクが消えていたりもするので、募集などは後でそのリンクに飛べないという時のフォローがあるほうが良いと思う。

事務局 参考にする。

委員1 あと要望だが、かめおかまちづくり活動博覧会はイメージ的にもうちょっとオープンな雰囲気になったらいいなという感じがする。きゅっとまとまって暗い所でやっているイメージなので、場所と、集まっているのも結局知っている顔ばかりになってしまったらもったいないと思う。もうちょっと外に向けた、一般の人も入れるような、見られるような仕掛けができないのかなという気がとてもする。

委員4 ガalleryは子どもの施設が充実しているので、土日は特に亀岡市以外の方もたくさん来られる。問題は会場かと思う。

事務局 市民ホールではない会場になった場合もどうやったら、ちょっと入ろうかと思ってもらえる雰囲気を作るのかについてもじっくり考えたいと思う。

委員2 入口のところにデコレーションでもなんでもいいが、楽しそうな雰囲気の飾りつけをする、子育ての方なら、おもちゃを前に置いておくと面白そうだと入ってくれる。そのような仕掛けを考えたらいいと思う。

委員5 開催日は土日を想定されているが、土日に市役所に行くというのが市民なら無いので、わざわざ行く人じゃないと市民ホールは通っていくことはないと思う。そもそも休日に玄関は開いているのかなと思ってしまう。

委員1 市民ホールじゃなくて開かれたアトリエでやるとかいう工夫も必要かと思う。その時に活動されている方の発表っていうのをもうちょっと積極的な発表ができる会場づくり、発表したいと思うような会場づくりができれば、もうちょっと参加も多いのかなと思う。紙一枚出してくださいよりは、来てねというのができないかなと思う。

事務局 団体の方も積極的に来なくなるような、ということか。

委員1 楽しそうな雰囲気のこと。

委員長 例えば、焼芋をふるまうとか。

委員1 別にわざわざそういうことをしなくても、キッチンカーにきてもらうとかもいい。

委員長 ちょっとお店がでて、お祭りのノリでやるというのもいい。

委員1 例えば活動の中で製品をつくっているところの販売があるとか、語るのも大事だが、いい広報のやり方というか、広げていく仕組みがいるのかなという気がする。せっかく博覧会という名前なので。

委員長 この名称では二回目だが、何回か続けて名前が定着して、楽しい集いに育てていくといいかなと思う。どの事業もそこが一番難題かと思う。新しいことをいかに認知させていくかということ。

委員2 キッチンカーの話じゃないが、日程をガレリアで子どもたちを遊ばせる集いがある日にこっちが合わせていったらどうか。そしたらついでにといったらおかしいが、せっかく来たのだからとうろうろする。やはり博覧会で大勢の人に認知してもらおうと思えば、なにかの事業とくっつけたらいいのではないかな。ついでに来てもらうだったらまだ可能ではないか。わざわざキッチンカーを呼ぶとなったら大変なことだと思う。

委員長 委員6、人が楽しく集まれるアイデアがあればぜひお聞きしたい。

委員6 発表会というのは大事なことだと思うが、この活動の目的は協働というテーマだと思う。こういう事業に手を挙げていただく市民の方から多くの方を巻き込んでいってもらって一致団結というのが目的かと思う。それを考えるときにはやっぱりストーリーがすごく大事なんじゃないかと思う。発表では時間が短いので、発起する思いから結果までのストーリーを非常に短くしか話せない。ネットを使って、取材形式でも、団体に書いてもらう形でも、ストーリーをちょっとずつでもアップロードしていただく形を取組全体でプラットフォームとして用意できれば、シェアという行為を繰り返すことで少しずつ活動団体さんにとっても仲間が増え、亀岡市にとっても仲間になりたいと思う人が増えるのではないかなと思った。やはり一か所に多くの方を集めるというのはなかなか難しいので、活動をストーリー化して表現することによって、市民力推進課の方々が目指している頂に到達できるのではないかなと思っている。力は貸せると思っているんで、ぜひぜひ検討しようということであればすぐ相談いただければと思う。

委員長 今のご意見は、広報のところ、支援金や事業の広報をするだけではなく、実際亀岡で活動されている市民の方々の活動の物語みたいなものもブログとかノートとか今いるんなものがあるが、そういうもので伝えていきたいねということかと思う。

委員 6 市役所のホームページってPDF添付だとか公募要項だとか、結果発表とかになってしまふので、その間のストーリーが一番、人の感情をくすぐるのでそれをうまく演出できるような形が欲しいなと思う。

委員長 あったらしい。誰がやるのかということになってしまうが。

委員 6 寄せ集めのレポートを作ってしまう方がいいかと思っている。我々が学生をいっぱい抱えているというのもあり、亀岡市にも学生はいらっしゃるので、取材させに行くというのは形としては非常に美しく、いいやり方かなという風にイメージは持っている。

委員長 委員 6、是非学生さんたちとまちづくり協働支援金に応募してはどうか。市民活動放送局とか。

委員 6 私どもの学生の方で、企業の特別な映像を作りますというショートムービーをたくさん作りに行くプロジェクトをやっている。学生の目線で企業さんのワンポイントをユニークに、許されるのならお笑いのネタにしながら撮りますというプロジェクトをやっている。学生にとっては動画の撮影のコツや編集のコツ、編集のコツというのはプレゼンのコツをつかむことと同じことなので、話すことがうまくなる。そういう動機付けをしたうえで企業にとっても学生がこういう風に見てくれるのだというのをより詳しく書いていただいている。そういうことをやってみたいとか取材をやってみたいという学生は、いったんちょっとした教育は必要じゃないかとは思いますが、非常に多くいるのではないかと思う。今は無償でやっているが、有償サービスにしようと思っている。同じような取組の仕方としてできるのでないかと思っている。

委員長 魅力的なご提案をいただいた。できると仰っている。

委員 6 やりましょう。

委員長 全体として振返って、言い忘れていたことやご質問はないか。

委員 1 ふるさと亀岡まちづくり応援事業について、見ていて結構問題かと思う。一団体は頑張られたが全体をまとめてみると、目標金額まで全く届いていない感じなのでこれは相当サポートしていかないといけない。

委員 4 ふるさと納税の仕組みについて、一番寄附を集めた団体の方はちゃんと理解をされている。自分たちのメリットになること、税金の控除になるということを理解されて、まず知り合いの方に進めていかれたのでお金がたくさん集まったのだと思う。他の団体もただ単に、団体登録してSNSにあげただけでは誰もわざわざ郵便振り込みで寄附をしてもらえない。寄附者自身もメリットになって団体を支えるってところを、他の団体もその団体のメンバーがメリットを理解してもらおうように、こちらから情報提供をしてあげると繋がっていくと思う。ただ広報してじっと待って、知らない人からの寄附を待つというのでは集まってこない。ここに成功例があるので、まずは身内から寄附をして、その次は繋がっていくところから広げていくというのが一番いいかなと思う。

委員長 そういうことを含めた支援が必要だということだ。

委員 1 個人的な話で、普通に会社勤めしているのでふるさと納税とか、ハードルがとても高い。理解もできていないし、一般の方に対して、もうちょっと上手く分かりやすくきっかけ作りみたいなのが欲しいという気がする。郵便局行ったらいいみたいなことは

分かるが、そこにまず、一步が踏み出せない。その辺をうまく浸透していくやり方がないのかなと感じた。

委員6 ふるさと納税のところで、京丹波町が去年やった取組を聞いたことある方はいらっしゃるか。直売所でものを買ってそれがそのままふるさと納税になって、納税証明書が発行されるという仕組みを京丹波町がされたのだが、あとから控除証明が来るような形で、野菜とか栗とかそういったものをふるさと納税として販売して税金の納税証明書を発行するという会場みたいなのを作って、そこで物を買いつつふるさと納税ができるという、そういうものの中に市民の方の活動応援というのでもできますよっていうのをいれていくと比較的分かりやすいのではないかなと思ったりした。

委員3 21ページの支援金の中間報告・交流会でなにかご意見があればと先ほどあったが、ありがたいことに身近なところで成功例があるのであれば、勉強会を開いてもらえるといいのでは。ふるさと納税の広報の仕方の勉強会を開いてもらおうと、だいぶ違うと思うし、すぐに使えると思う。審査会の時とかでもいいと思う。

委員長 確かに、委員1のおっしゃったようにハードルが高いというのはあるので、団体さんが自ら学んで努力されるというのも、市役所の方が市民に対してふるさと納税の方法を簡単にできるということを伝えていかれるという、それも大事かと思う。支援金の予算が相当減ったことに対してどなたもコメントされなかったが、諦めていらっしゃるのか、これからは市役所のお金に頼らず自ら資金調達をするというそっちの方向性が大事だということなのか。

委員1 去年の予算が100万で、60万に減っただけなので。もともと去年がめちゃくちゃ少なかったという印象があったので、募集の団体数が減っているからそこまで急激に減ったイメージがない。

委員2 自分で団体立ち上げてやっていく、それこそスタート事業で1年2年の方たちはやはり大変赤字だと思う。それを乗り越えたら、たとえ今のふるさと納税の寄附金にしろ、それだけのお金が必要なら向かっていくと思う。私は環境の分野でやっているの、他の民間の支援をけっこう受けられる状況もあるので、厳しいなら厳しいなりに研究しながらお金はとっていく。最終的には事業化で自分たちの団体がうまくプランを考えて、わずかであっても収入があるという方法へ持っていかないと、実際こういう団体は継続できない。ほんとうに補助金だけに頼っていたら団体は継続できないと思う。収益をあげていくというのはとても難しいところだが、いろいろやっていたら何かしら繋がっていくとは思っている。

委員長 一般企業でも起業されて10年後に残っているのは3割とかだったかと思う。そういう意味では市民活動もたくさん立ち上がって、3割残って、もっと残ってはほしいが、立上げされる方がたくさんいらっしゃるそんな雰囲気づくり、支援ができていったらいいなと思った。

4 閉会